

背景

○当社は、「水俣病特措法」に基づき事業再編計画を策定し、2011年4月より現在の経営形態の下、JNCが事業再編計画の内容を着実に遂行するよう、その経営の監督に当たってきた。

○当社は、2024年1月のチッソ支援連絡会議要請を重く受け止め、水俣地域の経済・雇用等に最大限の配慮をしながら、これまで以上に徹底した自助努力など、早期の収益回復と持続的な経営を両立させるための方策として、「2023～2027年度中期計画～業績改善のための計画～」を取りまとめ、2024年2月に公表した。

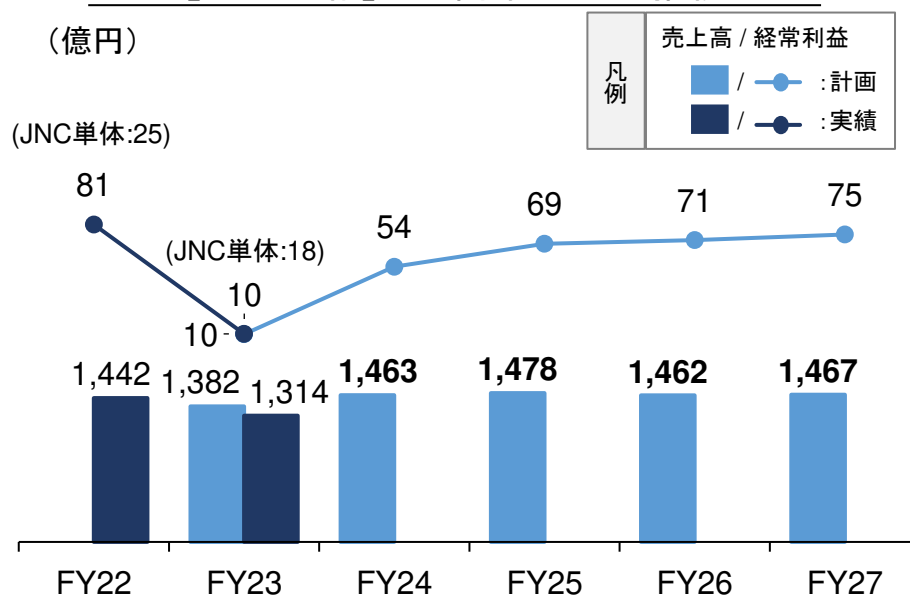
足下の状況

○「2023～2027年度中期計画」に基づき、「成長事業への投資」「繊維事業の構造改革による収益改善」「赤字事業への対策を継続」を柱に収益の安定化・拡大に向けた地盤固めの実現に取り組んでいる。FY23は、ウクライナや中東での情勢不安が原燃料価格を押し上げ、世界的な物価高騰とそれに伴う需要減退が続いており、FY22と比べて厳しい事業環境となった。このような環境下、①FY22まで続いた肥料価格高騰に対する先取り需要の反動減、②海外からの安価PP/PE流入による一時的な減販等の影響が大きかったものの、引き続き構造改革によるコスト改善に取り組むとともに③顧客製品の保険適用による販売増に伴うライフケミカル事業の拡大並びに④高成長が期待される有機EL市場へのタイムリーな製品提供による販売拡大等により、JNC連結は経常利益10億円と計画を達成、JNC単体も経常利益18億円と計画を上回った。

○FY24の業績予想については、ウクライナ、中東情勢の混迷や世界的インフレの継続、各国中央銀行の金利政策への思惑等による為替相場・ナフサ価格の急変動が予想される等、事業環境が大幅かつ急激に変動している為、見通しは極めて不透明な状況であり、不確定要素も重なっている。従って現段階では合理的な予想値を算定することが困難と判断し、未定としている。

計画/実績数値

【JNC 連結】売上高/経常利益推移



計画骨子の状況

1 成長事業への投資

現計画にて戦略的拡大と位置づけたシリコン・ライフケミカル事業については、成長投資を開始した。また、同じく戦略的拡大と位置付けた肥料事業及び重点育成とした有機化学品事業については、足下の状況に鑑みながら、成長投資を検討中。

2 構造改革

前計画から継続した液晶事業の構造改革はFY23をもって完了した。現計画より構造改革に追加された不織布事業では、販売規模に見合った生産体制の再編に向けた、生産拠点の統廃合プロセスを開始した。

3 赤字事業への対策

赤字事業の黒字化に向けた戦略及びプロセス管理、並びにモニタリング強化による事業管理を実施した。周辺材他事業は、赤字が継続も、損益が改善した。ライフケミカル(シート培地)事業は、品質不良問題の解消に取り組み、製品品質の安定化に目途がついた。